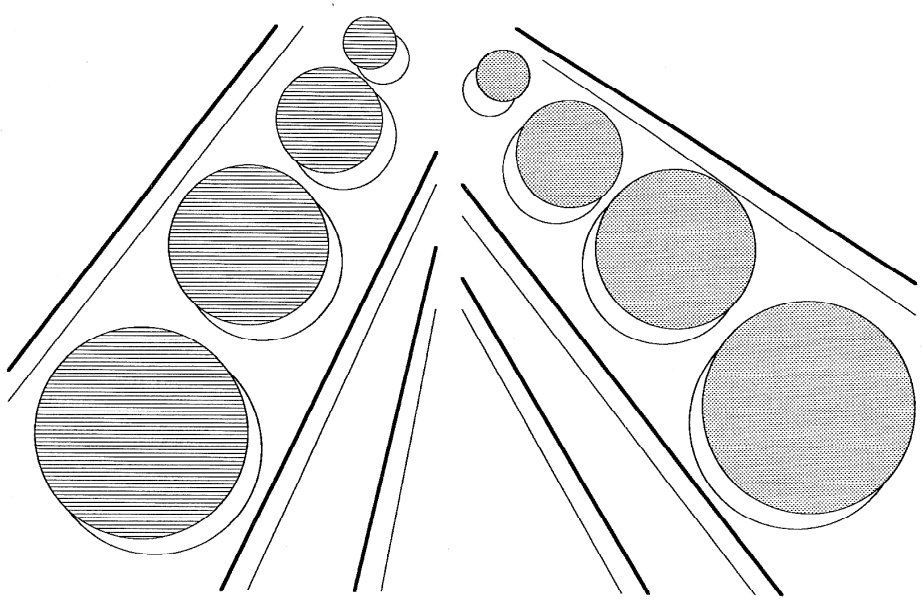


新 聞 ぐり

実技研修資料



記事の見つけ方

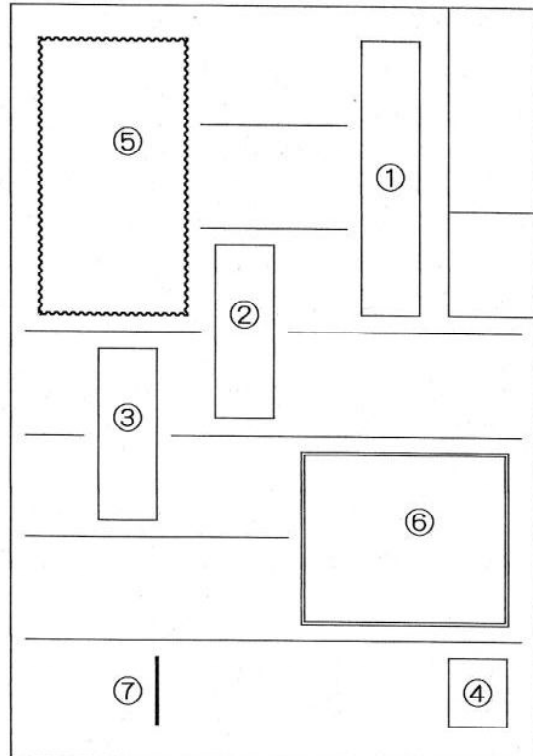
新聞を作るときに、必ずといって良いほど誰もが悩み苦しむのが「何を書いたら良いのか」ということです。一つ二つの記事はすぐ見つかるのですが、五つ六つとなるとなかなか見つからず「ネタが切れた」状態になってしまいます。そこで、「記事の見つけ方」について考えてみましょう。

実習1 11月いっぱいを利用してB4サイズの学級新聞を、下のレイアウトで作ろうとしたと仮定します。

自分が学級新聞の発行者になったつもりで、取り上げようとする記事を箇条書きにしてみましょう。

その際にその記事を紙面のどこにおくかも併せて考えたいと思いますので、右の紙面の番号も意識して下さい。

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____
- ⑥ _____
- ⑦ _____



どんな記事を取り上げようとするのかは、人によって違いがありますが、それは当たり前なのです。

たくさん記事を見つけられる人と、そうでない人の違いはどこにあるのでしょうか。

事象に対して問題意識をもって見ているかどうか

記事のえらび方

記事が見つかったら、その中から「何を選ぶのか」というのも新聞作成上の悩みの一つです。

学校・学級新聞の作成に当たっては、新聞のもつ各種の働きを押さえておかなければなりません。

そこで、新聞のもつ働きについて考えて見ましょう。

実習2 またまた11月に新聞を作ろうとします。編集会議の中で、今号で取り上げようとして、ピックアップされてきた記事は右の表の通りです。

さあ、君はどの記事にクレームをつけますか。

該当する項目の番号とクレームをつけた理由を答えて下さい。

11月号の記事

- ① 夏休みの過ごし方
- ② 梅雨に向けて
- ③ 定期試験
- ④ 文化祭
- ⑤ 教室環境
- ⑥ 何でもベスト3
- ⑦ 4コマ漫画
- ⑧ 学級の問題点
- ⑨ 悪口言いたい放題
- ⑩ 班長会報告
- ⑪ 今月の運勢

新聞のもつ働きには、いろいろなものがあります。

○活動性--- 学校・学級生活を高めて、明るく楽しい集団を作る。

○指導性--- 新聞を作ったり、読んだり、話し合ったりして仲間
同志の理解を深めしっかりした結びつきを作る。

○記録性--- 学校や学級での生活を記録する。

○報道性--- 学校・学級の出来事を他に知らせ、それらの楽しみ
と理解を求める。

これらの内容にかけ離れたものも、たまには良いと思いますが、頻
繁になると、その方向性が問題となってきます。

「オピニオンリーダー」としての指導
性を発揮するのが新聞活動なのです。

記事の書き方

記事が見つかったら、「どう書くか」がポイントにな
ってきます。

100字程度の短い記事もあれば、400字ぐらいの長いものも
あります。慣れてくれば大したことではないのですが、作成回数
の少ない生徒ほど、頭を抱えてしまうことがままあります。

要は書き慣れることが大切なのですが、現在、活字離れを起
こしている生徒が多いと言われています。そんな時にも、広報委員は頑
張れるのだから幸せですね。

そこで、少し練習をしてみましょう。

実習3

講習会に参加した「あなた」に原稿依頼が来ました。
字数は11字×20行。内容は「講習会に参加して」でした。
さあ、実際に原稿を書いてみましょう。(横書きで)

1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										

原稿を書くときに、「5W1Hをいれて」とかよく言われましたが、最近はあまりうるさくなくなってきているようです。

要は、その記事を「どんなふうにどんな切り込みで」伝えるかです。

形式を重んずるより、読んだときに中身が伝わる文章を書くことが大切です。

文字の書き方

新聞づくりは嫌いだという生徒の中に比較的多いのが、「字が汚いから」という理由があります。

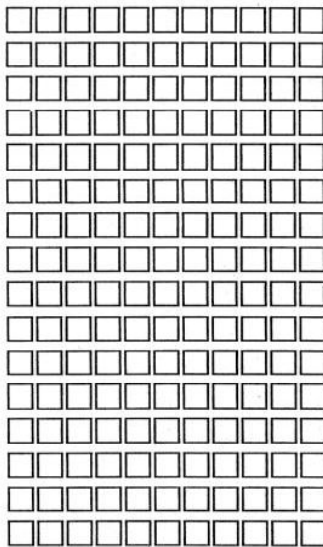
やはり、雑に書かれた新聞よりは、きれいに書かれてある新聞の方が読んでもらえるのは当たり前のことでしょう。

「きれい」という言葉の中には「丁寧」「読みやすい」という意味も含まれると思います。

たとえ、へたであっても丁寧に書けば誠意は伝わると思います。できれば練習をして、「きれい」に一歩でも近づく必要はあると思います。

さあ、練習してみましょう。

実習4 見本の文字を参考に文字を書いてみましょう。



見本

みんなも、それぞれ感じたことがあるだろう。

これを機会に、音楽に少しでも興味と親しみを持ってみるはどうだろう。

弁論大会にあたってはまず全員が原稿を書き、その中から、9名の代表者が、国語の小山先生によって選ばれました。

文字を書くときに気をつけて欲しいのは、「はみ出すぐらい大きく」書くということ。かといってマス目を無視して良いとは言いません。

印刷されない枠の中にコジンマリと書いた文字では、印刷した時に寂しい紙面になってしまいます。逆に書いた文字が大きすぎても、紙面が圧迫されて読みづらくなってしまいます。

文字のスタイルとしては、できるだけとんがらずに角張った、そして筆の最後をきちんと押さえたしっかりした文字のスタイルが良いと思います。

中には、筆文字よろしく流暢に崩して書いている生徒もいますが流れる字は読みにくくてしょうがないものもありますので、気をつけましょう。

良い例
あいう
月水金
悪い例
月ああ

ペンの使い方

新聞作りを楽しむための手段として、レタリングのときに各種のペンを使うやり方があります。

出来上がってからも紙面を楽しむために、蛍光ペンなどのカラフルなペンを使いましょう。

実習5 次のレタリングをしてみよう。

しんぶん

新聞

ももたろう

ネットワーク

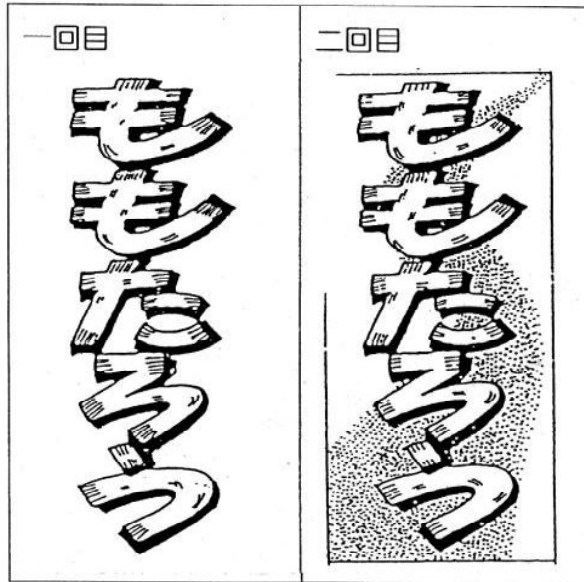
レタリングの時に気をつけなければならないのは、「強調するのは文字である」ということ。

スペースを与えられたとき、その範囲内で文字を最大限に活用し目立つようにレタリングをするのが良いでしょう。
ただし、こりすぎに注意を。

さらに「一度やったらおしまい」にするのではなく、右のように工夫を重ねていくと、どんどん良くなっていくようになります。

さらにいろいろと変わった出方を期待するならば、各種ペンを有効活用したほうが良いと思います。

ただし、印刷の仕方（写真製版）次第で、思ったように出てこないこともありますから、印刷に回すとき、自分はどう出したいかをしっかり伝えたいものです。



実習6 次のレタリングを直してみよう。

